富士宮市人口ビジョン（概要版）

■人口動向

■総人口は、2010 年（平成 22 年）の 135,764 人から、今のままの状態で推移すると 2060 年（平成 72 年）には 86,447 人まで減少すると推計される。

■2015 年（平成 27 年）の人口構成を見ると、40 ～ 44 歳（団塊ジュニア世代）が多く、次いで 65 ～ 69 歳（団塊の世代）となっている。一方、20 ～ 24 歳の若者が少なく、進学や就職等で市外に流出している。

■出生数は徐々に減少し、死亡数は増加することで自然減少が進んでいる。
2013 年（平成 25 年）の合計特殊出生率は 1.62 となっており、県平均と比べ高い状況にある。

■転出入のバランスがとれていることで、社会増減がほぼ均衡している。

■流入する人をうまく受け入れ、長く住める環境を整備していくことが必要となっている。

■人口減少がもたらす課題

人口減少が将来及ぼす影響は、以下のものが考えられる。

○労働者や消費者の減少による地域経済の衰退

○社会保障費を負担する現役世代の減少による社会保障制度への影響

○地域コミュニティの担い手の不足による地域への影響

○税収の減少により行政サービスや公共建築物などの維持管理・更新が困難など

■市民アンケートからの傾向

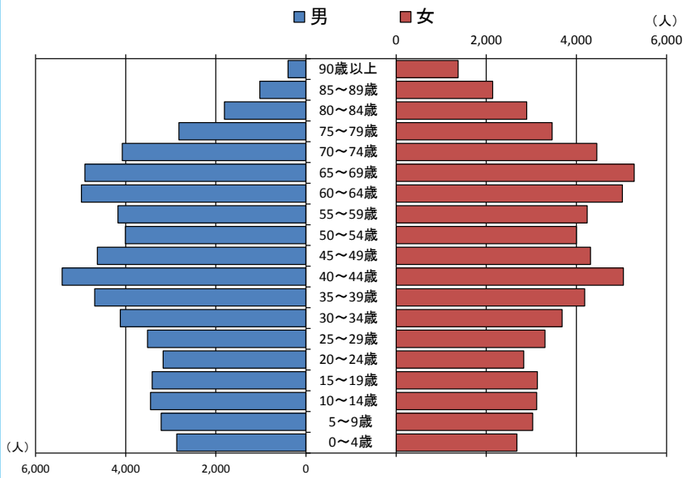
★アンケート結果を見ると、未婚者の約 80 パーセントが結婚を望んでいる。

★理想とする子どもの人数は平均 2.16 人、現実的に持てる人数は平均 1.85 人。

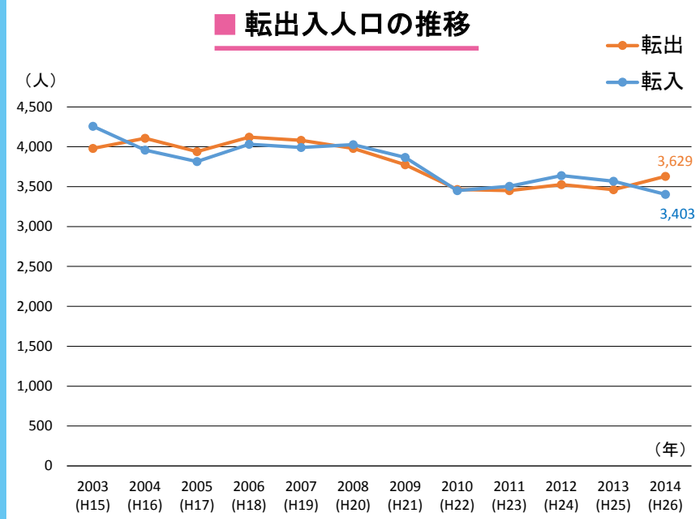
○潜在的なニーズは多いことから、市を挙げて、婚活支援や出産しやすくかつ安心して子育てできる環境を整備することで、人口増に結び付けていくことも可能である。

○**働く場所の確保や、出産・子育て支援の充実、それらに関する適切な情報発信などが**求められている。

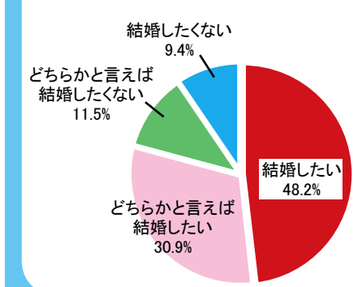
■2015 年（平成 27 年）5 歳級別人口構成



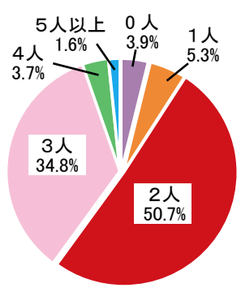
■転出入人口の推移



★結婚したいと思いますか



★理想の子どもの人数



■目指すべき将来の方向

人口減少の影響を最小限に抑え、将来に渡って活力あるまちを維持するためには、若い世代が安心して働ける場を確保し、結婚・出産・子育ての希望を実現することで人口減少を食い止め、人口構造の若返りを図ることが必要である。

そのために、本市が目指すべき将来の方向として、次の 3 つの視点を定める。

視点 1　大都市圏への人口流出の抑制と就労の場の確保

各種産業の振興を図り、若者にとっても魅力ある就労の場を確保することで、大都市圏への人口流出を抑制する。

視点 2　若い世代の結婚・出産・子育ての希望の実現

若い世代が安心して働くとともに、結婚・出産・子育ての希望が実現できるような社会環境を実現する。

視点 3　富士宮市の強みを生かした地域活性化

富士山の麓のまちである本市の強みを生かして地域の活性化を図ることで、人口が減少する社会においても将来に渡って住みよいまちをつくる。

現状のまま推移すると・・・

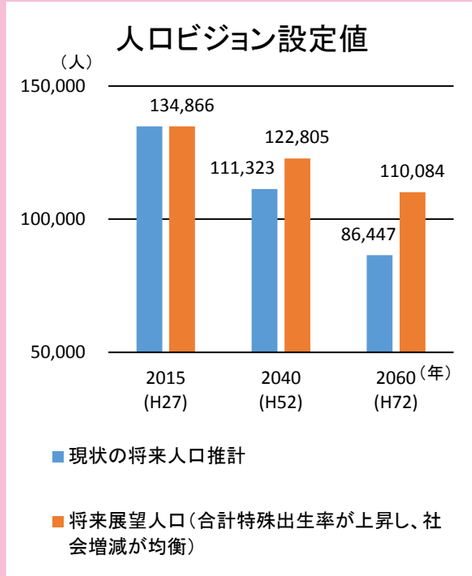
○人　口
2060 年（平成 72 年）　約 86,000 人（住基ベース）

○高齢化率
2060 年（平成 72 年）　35.0%

「富士宮市まち・ひと・しごと創生総合戦略」により

2060 年（平成 72 年）に人口規模 11 万人を維持し、人口構造の若返りを目指す

2040 年（平成 52 年）に合計特殊出生率 2.07(※)、社会増減は均衡



※ 2020 年（平成 32 年）に 1.70 → 2025 年（平成 37 年）に 1.80・・・と段階的に増加する事を見込む。

○人　口
2060 年（平成 72 年）　**約 110,000 人の人口を確保**
2100 年（平成 112 年）以降に約 10 万人程度で安定的に推移

○高齢化率
2045 年（平成 57 年）　**32.5 パーセントをピークに低下**
2090 年（平成 102 年）以降に 25 パーセント程度で安定的に推移

®富士宮市さくやちゃん